



研究部会報告

●対話型OR●

●第1回

日時：5月26日(火) 15:00~17:00 出席者：17名

場所：中国電力

テーマと講師：対話型OR研究部会の進め方

主査よりOR学会研究発表会アブストラクト(60春, 61春, 62春)を用いて「対話型ORのねらい」を紹介し、対話型ORのニーズについてフリーディスカッションを行ない、さらに今後の進め方を討議した。関連する各方面の話題を発表者より聞きながら、検討を進めることとした。

●第2回

日時：6月16日(火) 15:00~17:00 出席者：19名

場所：IBM広島OAセンター

テーマと講師：マルチプランは企業でどう活用されているか 和田一彦(イズミ)

OA化の推進施策の中で、マルチプラン使用には重点がおかれており、従業員の75%にあたる1300人に教育済みで、現場で各方面に利用されている。事例発表会も年2回開催し、ソフトコンテストも行なわれている。単純計算・転記作業の減少、他のソフトとの連結が容易、コンピュータの入門に最適などマルチプラン使用の効果が顕著であった。

●意思決定●

●第2回

日時：6月29日(月) 14:00~16:00 出席者：11名

場所：住商コンピューターサービス㈱

テーマと講師：1.「品質展開とAHPの組合せによるソフトウェアの評価…日本語ワープロを例に」 片山禎昭(日本システム㈱)

2.「非線型計画パソコンソフトの評価」真鍋龍太郎(文教大学)

●第3回

日時：8月6日(木) 14:00~17:00 出席者：12名

場所：住商コンピューターサービス㈱

テーマと講師：1.「エキスパートシステムにおけるA

HPの利用」寺野隆雄((財)電力中央研究所)

分散型エキスパートシステムにおいて不確実性をともなう知識を処理するのにAHPを用いる方法と適用事例を紹介した。

2.「Expert Choice の紹介」新村秀一(住商コンピューターサービス㈱)

●交通・流通システム●

●第4回

日時：7月16日(木) 18:00~20:00 出席者：6名

場所：東洋経済新報社(日本橋)

テーマと講師：AIツールを用いた旅行案内情報システム 八戸英夫(工学院大学)

首都圏内外の列車情報や観光行楽地情報をデータベースとして、AIツールを用いて利用者の多種多様な要求を考慮し、最適な列車・観光行楽地を探し出すシステムの紹介があった。特長は、パソコンで利用可能なこと、代替案の案内ができること、AIツールによりシステムの構築が容易で、あいまいな情報にも対処できることなどである。

(AHPを会話形式で誰にでも簡単に利用できるようにしたソフトウェア Expert Choice を紹介した)

●政策科学●

●第3回

日時：7月17日(金) 14:00~17:00 場所：芦大クラブ

テーマと講師：「川崎製鉄におけるスタッフサポートシステム」藤田明子(川崎製鉄)

「Modelling Uncertainty in Expert System」H. J. Zimmermann 教授(アーヘン工科大)

会員の声・近況

角田 知行 社会環境システム研究所

アプリケーション・ソフトの開発に従事しております。与えられた問題領域における要求分析および最適解を求めるアルゴリズムの設計時にはORが身近な存在として感じられます。

最近のパソコン処理系がもたらす世界には興味深いものがあり、カラーグラフィックス、マルチウインドウ、

マウス、音声入力等をキーワードとしてコンピュータとの対話環境がいちじるしく向上してきています。これからは一意に解が求め難いような人間社会における問題解決/意思決定における種々な局面を、コンピュータと人間との対話によって、検証・試行・訂正・確認しながらリーズナブルな解を求めていくという、ゲーミングシミュレーション的なコンピュータ利用が社会の中でひとつのスタイルとして確立されていくと思われまふ。ここにおいて、ORの分野として研究されてきた種々な手法が社会の中でより身近かに、具体的な恩恵をもたらすものとして幅広く活用されていく、そんな時代がくると思っています。

個人的には意思決定/合意形成にかかわる討議手法/分析手法に興味をもっており、ISM・DEMATEL・AHP (Analytic Hierarchy Process) 等の手法を活用・発展させ「なるほど、こうやってひとつの問題を解決していくことは楽しくて、リーズナブルな良い方法ですネ!」と言われるようなアプリケーションをパソコン上で具現化してみたいと思っています。さらに集団討議セッションで、そのような問題解決のためのツールを活用した合意形成のあり方を考えてみたいとも思っています。

高辻 秀興 東京工業大学社会工学科

都市再開発および不動産開発が専攻で、ORに関して

編集後記▶この夏28番目の国立公園として釧路湿原が指定された。面積2万ヘクタールを超える日本最大の湿原は貴重な動植物の宝庫だ。これで北海道は6カ所の国立公園をもつことになる。また道央を訪れる北海道と同じ亜寒帯に住む外国人は樅の木林と共存する水田の稲にびっくりするという。スケールの大きさと四季の変化に富む北海道の中で自然保護と調和を保ちながら大きな視野に立つ総合的な産業・経済の発展を期待したい▶秋の研究発表会が近づきました。今回は本会創立30周年記念

は門外漢です。多変量解析の利用が研究上の作業の一部として多いのですが、最近あまり勉強していません。そこで次のような問題に関して、どなたかぜひお教え願いたいのですが…、

「従属変数 y と説明変数 x の観測値が n 個の個体に関して得られたとします。これらの個体が m 種類の異なる回帰平面 $y = a_i + b'_i x (i = 1, 2, \dots, m)$ にしたがうものの混在したものであるとき、観測値をもとにこれらの回帰平面を推定し(実際には m も未知)、同時に個体をも m 個のグループに分類したい」

会員諸氏のご厚情を期待する次第です。

会合記録

表彰委員会 8月25日(火) 7人

庶務幹事会 8月27日(木) 7人

お詫びと訂正 5月号掲載の事例研究「パソコン版ダンブトラック運行シミュレータの開発と走路区間のモデル化」(pp. 259~268)に原稿受理の日付が落ちておりました。お詫びして次のとおり追加させていただきます。

原稿受理 昭和62年3月7日

式典が前日の10月16日午後神田・学生会館で開催され、ひきつづき研究発表会と併せ懇親会が開催されます。ご出張の日程を半日早めにご予定ください▶8月中旬ブエノスアイレスで開催されたIFORS会議に出席された視察団(松田武彦団長)の皆さんが元気に帰国されました。本誌12月号に大会報告が載せられる予定です。大会に参加した山田編集委員長の話では各国出席者との間でOR誌が話題となったそうで、各国各方面で評判も良いようです。(K)

オペレーションズ・リサーチ

昭和62年10月号 第32巻 第10号 通巻322号

代表者 吉山博吉

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) 〒113

編集人 山田善靖

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 850円(郵送料含) 年間予約購読料 9800円(郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社 (571-2548)、日経弘報社 (563-2241) へ